塩浜小 学校だより

第　　１１　　号
令和　元年　９月１１日

先週末から今週始めにかけて、台風 15 号が関東地方に接近・上陸したり、35℃を超すような猛暑日があったりと、９月に入ってからも、目まぐるしく天候が変化しています。もうそろそろ猛暑もおさまって欲しいところですが、来週末の運動会は、すっきりとした秋晴れのもとで開催できることを期待しています。

平成３１（令和元）年度　全国学力・学習状況調査の結果

先の「学校だより　第９号」でお伝えしたように、４月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、７月３１日に公表されました。既に６年生児童に「個人票」を返却しておりますが、本年度の本校の調査結果等について、その概要をお知らせします。

文部科学省が実施する本調査は、平成１９年度から、小学校６年生・中学校３年生の児童・生徒を対象に、全国一斉に毎年４月に実施されています。子どもたちが、自分の得意なところや苦手なところ（いわゆる「強み」や「弱み」）に気づくとともに、学校が、子どもたち一人一人の課題を把握し、指導の改善に活かすことがねらいです。本年度は、小学校では、教科に関する調査（国語・算数）と、生活習慣や学習環境等に関する調査が行われました。また、国語と算数については、これまで、主として知識の習得をみる「Ａ問題」と、主として活用力をみる「Ｂ問題」とに分かれていましたが、今年度は廃止され一本化されました。

四日市市全体でみると、昨年度は、国語・算数（Ａ問題）で全国平均を上回っていましたが、本年度は、国語・算数ともに全国平均を下回る結果でした。本校では、昨年度は、国語・算数・理科で全国平均を上回っていましたが、本年度は、国語・算数ともに全国平均を下回りました。

教科別にみると、国語では、枠で囲まれた限られた文章（短い文章）を読み取り、問われていることを理解し答えることが「強み」として表れており、漢字の理解と正しく使うことが「弱み」として表れています。また、長文の読み取りや、図表やグラフの読み取りが「弱み」として表れています。

算数では、「図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成すること」が「強み」として表れており、「示された計算の仕方を解釈し、求められている問いに対して記述したり、応用して計算したりすること」が「弱み」として表れています。

国語・算数に共通していることとして、問題形式別でみたときの「短答式」や「記述式」の問題が「弱み」として表れています。

こうした点をふまえると、すべての学習の基盤となる「問題を読み取る力」や「適切に表現（記述）する力」を伸ばしていく必要があります。そのために、

＜裏面に続く＞

「読む」「書く」「計算する」などの基礎的・基本的な学力の定着を図るため、反復して繰り返し学習していきます。また、新聞記事やワークシートなど、多様な文章や資料等に触れる機会を設け、様々な情報の中から必要な情報を読み取る力をつけていきます。そして、学校生活の様々な場面で言語能力の育成を図り、読書活動を充実させ、語彙力や表現力を伸ばしていきたいと思います。授業では、子どもたちの「できる力」を見極め、少し先のめあてをもった課題を与えることにより、達成感を味わわせながら学力を伸ばしていけるよう、教材を精選し個に応じた課題を準備するようにします。また、「ペア学習」や「グループ学習」でお互いの意見を交換し合う場を設けるなど、相互にかかわり合い学び合う授業を進めることにより、深い学びとしていきます。

次に、質問紙による日常生活や学習の状況等をみると、本校の６年生児童は、食事や睡眠などの基本的生活習慣は整っており、学習習慣も定着しているようです。また、規範意識や「いじめ」に対する意識は高く、「いじめ」については、全員が「どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答しています。一方で、家族とのコミュニケーションや自尊感情・自己有用感については、全国平均よりも低い値を示しています。「普段の一日あたりの勉強時間」では、「２時間以上」と答えている割合が全国平均よりも高い一方で、「全くしない」と答えている割合も全国平均よりも高く、二極化しています。同様のことは「図書室や図書館の利用」についても表れています。「地域の行事への参加」や「地域や社会への関心」については、全国平均よりも高い数値を示しており、地域とのつながりの深さが表れています。

学習面については、「算数の勉強が好き」な児童の割合が全国平均よりも高いのに対して、国語への苦手意識が強く、国語の大切さや将来的な有用性についての意識も低いことがわかりました。また、「全ての問題で、最後まで解答を書こうと努力する」など、粘り強く取り組む姿勢が「弱み」として表れています。さらに、学級での話し合い活動における満足度が低く、「難しいことへ挑戦する気持ち」や「学校生活への期待や意欲」が「弱み」として表れています。

これらの質問紙調査の結果をみると、人権感覚や優しい気持ち、地域への思いや自己有用感など、個々の子どものレベルでは育っているものの、学級集団の中ではそれをうまく表現することができず、全体の雰囲気に流されてしまう傾向があることがわかります。学校では、「人が話をしているときは、相手の人の話を静かに最後まで聞く」ことが、「一人ひとりを大切にする」ことの基本であることを、全ての学年において指導していきたいと思います。落ち着いて、安心できる学習環境を整えていくことが、望ましい人間関係を育むとともに、学力向上にもつながっていくと考えています。各家庭におかれましても、こうして点をふまえてご指導いただきますよう、よろしくお願いします。

今回の「全国学力・学習状況調査」の結果をふまえ、子どもたちの現状と課題を整理し、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、学校教育・家庭教育・社会教育のさらなる充実に取り組んでいきたいと思います。